

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年12月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071102018
法人名	大和ケアサービス株式会社
事業所名	グループホーム花うさぎ
所在地 (電話番号)	福岡市南区塩原2-2-8 (電話) 092-511-1111
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年11月4日

## 【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	6 人
常勤換算	15.4 人

### (2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	18,750 円	
敷金	有( ) 円	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 500,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	500 円
	夕食	800 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,750 円		

### (4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	原病院、大多和歯科医院、前田歯科医院、ひのでクリニック
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長は福祉の仕事に興味を持ち、スウェーデンに行って「高福祉、高負担」の理想の福祉を見学し学んできた。その中で地域に密着したサービスを実現することの重要性を知り、街中で周辺住民との交流ができるホームを目指して設立した。ホーム周辺は警察、区役所、消防署など公共施設が立ち並び、JRや西鉄の駅からも徒歩圏内にあり、交通の便が良い。家族の訪問が多く、家族のかかわりが十分に保たれ、今までと変わらない家族関係を継続できている。屋上には四季折々に菜園をつくり、季節を感じながら生活ができる。敬老会の人たちや園児の訪問も多く、お月見や餅つきなどの行事が盛んに行われている。利用者の生活の中に地域との関わりがあり、理念を念頭に置いたケアが実施されているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価での改善課題については、全職員と家族で改善に向けて話し合いを行っている。市町村との連携や居室の配慮に関しても改善に向けて取り組みを行っているが、鍵の施錠は、街中で車の往来が激しい立地条件と家族からの希望で開錠には至っていない。利用者には閉塞感を感じさせないように日々マンツーマンで対応できるように心がけている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価についてミーティングで話しており、職員はその意義について理解している。自己・外部評価を受けることで、日常のケアの見直しをしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には自治連絡協議会会長、連合会長、公民館長、民生員、家族、利用者、地域包括支援センター職員が参加して行われている。ターミナルケアや感染症の取り組み、水没地域であるため避難場所などの災害対策について話し合いが行われている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 年2回開催している家族会には殆どの家族が参加をしている。その中で出た要望や意見は運営に反映させるようにしている。また1日に2~3人の面会があり、面会時には声をかけて意見を聞き入れている。頂いた意見や要望には、改善できるように協議をして対応をしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 校区の行事である運動会や文化祭などに積極的に参加をしている。その結果、地域の方々のホームに対する理解が進むとともに、地域からの誘いが増えている。また福岡在住の利用者が多いことから「どんたく」にも全員で参加をして交流を深め、名前や顔を覚えてもらっている。近くの園児や敬老会が、遊ぶに立ち寄ってくれることがある。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会の一員として生活していくため、地域密着型サービスに基づいた理念を事業所独自に作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念をホームに掲示するとともに、各職員の名前入れの中にも携帯し常に理念の意識付けをしている。家族には毎月の便りの中に理念を同封し共有できるようにしている。職員は、理念を念頭に置いたケアを実施している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区の行事である運動会や文化祭などに積極的に参加をしている。その結果、地域の方々のホームに対する理解が進むとともに、地域からの誘いが増えている。また福岡在住の利用者が多いことから「どんたく」にも全員で参加して交流を深め、名前や顔を覚えてもらっている。近くの園児や敬老会が、遊ぶに立ち寄ってくれることがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価についてミーティングで話しており、職員はその意義について理解している。外部評価を受けることで、日常のスタッフはケアの見直しをしている。前回の外部評価であがった玄関の施錠、市町村との連携、居心地よく過ごせる居室の配慮について、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には自治連絡協議会会長、連合会長、公民館長、民生員、家族、利用者、地域包括支援センター職員が参加して行われている。ターミナルケアや感染症の取り組み、水没地域であるため避難場所などの災害対策について話し合いが行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には、介護保険更新申請などに出向いた際にも窓口で話し合いをしている。入院した利用者の2時間おきの痰の吸引など対応困難なケアについて担当者に相談をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修を受講して制度を理解している。パンフレットや関係資料を準備して、いつでも制度活用の橋渡しができるようにしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の食事の摂取量や体重などの健康状態を、暮らしぶりの写真を添えて、各担当者が報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスを設置している。年2回開催している家族会には殆どの家族が参加をしている。その中で出た要望や意見は運営に反映させるようにしている。また1日に2～3人の面会があり、面会時には声をかけて意見を聞き入れている。頂いた意見や要望には、改善できるように協議をして対応をしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりがあったときには、顔なじみの職員が対応することを基本と考えている。また、レクリエーションや行事はユニット合同で行い、常に利用者や職員が同じ空間で触れ合うことを実践している。職員の退職や担当者の変更については家族にお便りで知らせている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別や年齢などを理由に対象から排除しないようにしている。休暇は希望通りに取りやすく、職員の社会参加や自己実現の権利が十分に保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は年1回人権学習に参加をしている。学んだ研修内容は伝達研修を行い、職員に周知している。管理者は研修案内を掲示して職員にも参加を働きかけている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に職員が交代で参加ができるようにしている。新人職員には3ヶ月にわたり自己評価をさせてレベルアップにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会の勉強会に積極的に参加をしている。他のホームの餅つきなど行事に参加する機会を設けている。職員は実践者研修で知り合った同業者との交流をもちサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族のホーム見学者が多く、ホームの雰囲気を感じていただき、十分に説明をしてスムーズに入居できるように支援をしている。利用者がホームや職員に馴染めるよう家族にたびたび来てもらうなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は多種多様な経験があり、菜園、大工仕事、挨拶、音楽など場面場面で特技を発揮できるようにしている。互いに学びあうことで支えあう関係づくりをしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者とのかかわりの中で、言葉や表情で利用者の思いを把握している。また意思疎通の困難な場合は、職員間で話し合ったり、カンファレンスや家族から情報を収集して利用者本位に対応できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向や要望を重視した利用者主体の暮らしができるように検討をしている。利用者本人からの要望が伺えない場合は、家族から聞き取りを行い、日々の暮らしに反映できる介護計画を作成し、家族の確認を取っている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回の見直しを行っているが、利用者の日常生活や健康状態を申し送りや伝達ノート、月1回の会議などで確認し見直しを行っている。計画の見直しと共に、状況の悪化があった場合は、家族や関係者で話し合い現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への同行支援が行われている。地域の中学生の体験学習や訪問介護員2級研修実習の受け入れを行っている。ホームの屋上で行われる餅つきや月見などの行事を地域の住民に開放している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後、ホームの協力医療機関にお願いしたいとの利用者・家族の要望があれば受け入れているが、本人・家族が希望するかかりつけ医への受診できるように支援し、かかりつけ医との連携を保っている。家族に代わって受診同行した場合は家族への報告を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の支援ができるように同意書、マニュアルを作成している。入居時に利用者・家族と方針について話し合い、職員間で共有している。かつて、利用者の一人が末期ケアの対応が必要になり、家族・医師・職員で方針を共有して取組んだ。その後、回復して入居を継続している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、利用者の尊厳やプライバシーを大切に言葉かけや対応に職員全員で取り組んでいる。個人情報に関する記録は事務所に適切に保管し秘密保持に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日のプログラムはあるが、一人ひとりのその日、その時の思いを尊重したケアを行っている。利用者の体調や状況に応じて見直しや検討を行い、利用者の気持ちに添えるように支援をしている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは、併設施設で作成されているが、食材の調達や調理はホームで対応している。介助の必要な利用者へ配慮しながら職員も一緒にテーブルを囲んでいる。また配膳や食事の後片付け食器洗いなど職員と一緒にやっている。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は要望に添って毎日でも利用できるようにしているが、時間の制限は職員の勤務の都合上、夜8時までとしている。どうしても夜8時以降の要望がある場合は、ユニット間で協力し合って実施に取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の時間が近づくとエプロンをかけては配膳の手伝いをしたり、洗濯物たたみなど利用者の得意とすること、能力が活かせるように支援をしている。音楽や野球観戦を楽しみにしている利用者には家族とともに職員が同行し、楽しく活気ある日々が過ごせるように取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に合わせ天気の良い日は、近くの公園に出かけたり、地域の清掃活動に参加する人、買い物に行く人、それぞれの要望に添った支援をしている。ホームの屋上庭園での花見、茶話会、外気浴を楽しんだりしてホーム内だけで過ごすことがないように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物前は車の往来が多く、家族の強い要望もあって1階玄関、2階の当ホームの玄関(エレベーター)、屋上への出入り口には施錠をしている。前回の外部評価でも改善にあげられ、その後前向きに話し合いを行ったが、現在まだ施錠されている。職員の気配りで閉塞感を感じさせないように、マンツーマンで対応できるように努力をしている。	○	ホームが街中で車の往来が激しく、安全を重視することは必要であるが、職員全員が鍵をかけることの弊害を理解して、家族との話し合いを重ね、施錠しないで自由に入りが出来るような取組みが望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設のケアホーム、デイサービスと合同避難訓練を1回、ホーム独自の昼夜を想定した消防署との避難訓練を1回行っている。職員は誘導法や器具・備品・連絡体制など理解している。地域の学校や施設などの避難場所として利用できるように近隣との連絡を取っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取、嚥下状態など詳細にアセスメントし、一人ひとりについて全職員が把握している。その日の利用者の健康状態や食事摂取状況などを活動記録表に記載し、利用者ひとり一人に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	4階建ての2階の一角にリビングがあり、窓からはマンションやビルが見えている。リビングや廊下には四季の花が、壁面には手書きの書や折り紙が飾られ、くつろげる空間となっている。屋上には大きな鉢にめだかが泳ぎ、周囲には花壇・野菜畑がある。月見や茶話会など楽しく居心地よく過ごせる工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベット・カーテン・小引き出しは家族と話し合いの上、ホームが準備しているものを使用している。入居前に馴染んでいた筆筒や置物、写真、絵画などが持ち込まれ、生活の継続を重視し居心地よく過ごせるように工夫が行われている。</p>		